

第六回浦昭二記念賞選考記

情報システム学会 浦昭二記念賞選定委員会委員長 杉野 隆

はじめに

今年度の浦昭二記念賞選考に当たっては、例年同様7月1日に全会員に表彰案件の推薦を依頼し、9月15日に応募を締め切った。実践賞1件の推薦があり、本委員会で審査の結果、実践賞1件を表彰することを決定した。11月の理事会（メール審議）で承認され、第17回全国大会・研究発表大会（12月11日）において表彰式を行った。本稿では、表彰内容と委員長としての雑感を述べる。

第六回表彰内容

表彰賞 実践賞

表彰理由 海外パッケージソフトウェア販売事業の実践を通じて、企業の情報システム運用管理の健全化を推進

表彰対象者 株式会社ブロード（代表取締役 姫野 恵悟氏）

表彰対象者の概要

- 1 株式会社ブロード社（以下、当該社）は、1987年にホスト系の運用管理ソフトの販売・サポート・保守を目的に設立された。ITゼネコンを中心とした人月ビジネスによるSI事業ではなく、専ら海外のパッケージソフトを日本化し、国内でレンタル販売、導入支援及びその保守というストックビジネスを、大手ユーザ企業を顧客として行っている。近年は、ホスト系及びサーバ・クライアント系のIT運用管理に加え、情報セキュリティソフトにも注力し、顧客の情報システム運用環境の改善・高度化に貢献することを事業目的としている。

主な製品リスト（46製品）：<https://www.broad-corp.co.jp/product/index.html>

- 2 当該社はベンダ中立の立場にたち、ベンダの提供するソフトウェアを使用するユーザ企業が情報システム運用の主導権を握るという顧客、ベンダ、当該社のTriple Winを目指している。そのために、1990年以来、利用者主体のユーザ会「コンピュータ運用を考える会」（会費制）を東京と大阪で毎年数回開催し、ソフトウェア利用技術に関する情報交換を継続的に行い、システム運用部門の人材育成の支援も行っている。

表彰理由

- 1 従来、情報システム部門の関心は業務アプリケーションの企画、設計・開発ステップに重点が置かれてきたが、最後のステップであり継続的に係わることになる運用管理ステップの技術の体系化、人材育成は本来最も重要な課題である。情報システムの大規模化、サプライチェーン化に伴い、システム障害の影響も大規模化しており、IT運用管理、情報セキュリティ管理は一層重要になっている。
- 2 日本のSI事業は、ソフトウェアの価値を人月ベースで価格設定（人月ビジネス）し、『作って終わり』という単発型ビジネスを行ってきた。しかし当該社は、海外ソフトウェア製品を日

本市場に紹介し、レンタル／保守契約ベース（ストックビジネス）で販売・技術支援する継続型の事業のみを行っている。

- 3 本学会は，“真に人間中心の情報社会を実現する”ことを理念としている。当該社の経営理念は本学会の理念に合致するものであり、その活動は浦昭二記念実践賞の表彰に値するものである。当該社には、今後とも、IT運用管理技術の体系化、製品の評価方法の確立によって、日本のIT運用管理用パッケージソフトウェア市場の健全な発展に貢献されることを期待する。

雑感

大会が2年ぶりにリアルで開催され、会長による表彰状、賞金の手渡し授与、受賞者のスピーチ、記念写真撮影を滞りなく行えましたので、ほっとしています。

近年、国や金融機関などの大規模情報システムのシステムトラブルが相次いでいます。その意味でも、今回情報システムの運用管理分野から実践賞を授与できたことは、非常に意義があることと思います。

次回（2022年）には、論文賞を含め、会員の皆様からさらに多くの表彰者推薦をいただき、各賞の表彰をにぎやかに行いたく、よろしく申し上げます。

末尾にながら、姫野氏には、時間の都合上受賞のお言葉を短時間に限らせていただきましたが、2022年5月に開催予定のシンポジウムではじっくり講演していただく予定です。乞う御期待。